

議案第 63 号

宝塚市教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて

資料 1 任命しようとする者の活動内容や考え方

1 主な活動内容や実績、考え方について、本人から提出された説明内容は次のとおりです。

(1) 事務職、係長として

市役所への入庁から長年、窓口業務を中心に事務の効率化や正確性等を目的としたコンピュータシステムの構築、改修を担当した。仕事を進める中では、制度や事務の内容、事務に関わっている職員の考えなどの把握が必要であり、担当者間での意見交換、協議の重要性を認識した。また、個人情報保護や情報セキュリティの重要性から、単に効率化を求めるのではなく、安全性などのバランスを大切に業務を遂行してきた。このような経験を通じて、仕事の組み立て、進め方などが身についたものと考えている。

情報部門以外の職場では、国民健康保険の特定健診・保健指導、後期高齢者健診などの業務立ち上げに携わり、医師会や庁内関係部署との協議、調整を図りながら業務を構築し、実施につなげることができた。これまでの仕事の進め方などの経験が大きかったと考えている。

(2) 副課長、課長として

健康福祉部の健康、地域福祉、高齢者福祉に係る業務を副課長、課長として所管した。健康推進課では保健師などの専門職の多い職場であることから、事務職としての立場、役割を認識しながら常に調整を心掛け管理職としての役割を遂行した。

地域福祉、高齢者福祉の業務では、高齢者の生きがいづくりや介護予防、高齢者虐待など、様々な取り組むべき事案があった。高齢者の居場所づくりや見守りの取組を進め、社会福祉協議会との連携により市民や事業者による「地域見守り隊」を立ち上げた。また、制度の狭間で困難を抱える方の相談支援について、地域や福祉活動団体、福祉事業者などとの連携による宝塚市セーフティネット会議の構築に取り組んだ。

高齢者や障碍のある方などが安心して暮らし続けるためには、法定の福祉サービスだけでなく、民生委員・児童委員や自治会、まちづくり協議会、福祉活動団体、福祉事業者など、多くの方の関わり、支え合いが必要であり、そのような関係性構築のためには、対話を重ね連携を図ることの大切さを強く感じた。

一方で、グループ活動や地域での活動などにおいて、担い手不足が進んでおり、地域との連携を進める上で、担い手の育成が課題であることを認識した。

(3) 室長、部長として

室長としては、健康福祉部健康長寿推進室長として、介護予防の取組の拡大に取り組んだ。企画経営部政策室長としては、政策推進課が政策・施策決定の業務のほか、様々な事業の実施担当を担っていたため、各事業担当者との役割分担や調整を進める中で、事務執行に携わることも多く、繁忙な中での取組となった。

部長としては、行財政改革担当部長として本市の行財政運営の健全化に向けて事務事業の見直しや課題の解決に向けて取り組んだ。各部局の取組の調整や協議、進捗管理を行ったが、なかなか成果もあがらず、全庁一丸の取組として全事務事業見直しにも着手した。一方、減量型の行財政改革も難しい状況となったことから、将来を見据えた業務改革、働き方改革に視点をおいた行財政運営への方向性を示し、これが令和3年度からの行財政経営方針の取組につながっているものと考えている。

健康福祉部長としては、課題となっている事案、進捗遅れの事案に注力し取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療機関や福祉事業者の支援、生活困窮者などへの給付金支給など、新型コロナウイルス感染症対策の事業が中心となった。そのような中、新型コロナウイルスワクチン接種事業に関しては、平成21年度の健康推進課副課長時代の新型インフルエンザワクチン接種の経験を踏まえ事業準備を行ったが、十分な体制が構築できておらず、混乱を招いた。大きく反省すべき事業であったことを今も忘れていない。新型コロナウイルス感染症により、人の交流や支え合いの大切さ、危機管理、リスクに対する備え、情報発信の大切さを改めて認識したところである。

(4) 理事として

行財政経営方針に基づく取組のうち、特に、財政基盤、組織基盤、デジタル・データ基盤の基盤強化の取組に注力した。その中でも事業検証に関して担当者との協議を数多く行ったが、財政的に大きな成果を出す結果に至らなかったことを反省するとともに、現在、全事務事業を対象とした見直しについて、担当者との意見交換を重ねながら進めているところである。

2 教育委員会が抱える課題にどのように取り組んでいくのかについて、本人のコメントは以下のとおりです。

社会情勢の変化に伴い、教育分野において GIGA スクールや部活動の地域移行、コミュニティ・スクールの推進、いじめ・不登校対策、校区の整合と小中一貫教育の推進、老朽化した学校施設の対応、教職員の働き方改革など、様々な取り組むべき事案が発生しており、それぞれの事案について、市議会の本会議や委員会での意見により課題が山積していることを認識している。

課題に対しては、その解決に向けての取組が進められているところだが、取組の詳細や進捗状況を現時点では把握できていない状況である。まずは、課題に対する取組の状況について、教育委員会、学校園との対話により、地域や関係団体、関係部署との連携を含めた執行体制や進捗管理体制、執行上の課題などを把握するとともに、私のこれまでの行政経験を生かしながら、私なりの気付きなども含めて意見交換し、必要に応じた対応に取り組む。また、現場に出向きその状況を把握することや、定期的な進捗状況の把握、執行上の課題に対する意見交換などにより、取組を推進していく。

個々の職員が子どもたちのためにどうあるべきかを考え、他の職員の立場と自らの役割を認識し、行動することで、組織力を高めることが重要だと考えている。子どもたちのためにいかにこの課題を解決していくか、教育委員会、学校園が一体となり取り組んでいけるよう、リーダーシ

ップを発揮し、全力で取り組む。

第2次宝塚市教育振興基本計画に掲げる目標、「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり」の達成に向けて、15の基本方針が掲げられており、いずれも大切なことであると認識している。その中でも、「命の大切さや多様性について理解し、思いやりの心を持つ子どもを育てます。」は、私が生きていく上で大切にしていることに通じており、重要で大切にしたい方針と考えている。特に、いじめに関する記事を目にするたびに、あってはならないことという思いと、本市においても他人事ではないという思いを抱いている。命の大切さ、人権尊重について、子どもも教職員も理解を深め、相手を理解し、思いやりや助け合いの心を持った環境を基礎とした、安全・安心な環境の中で子どもたちが笑顔で、いきいきと活動できるよう、各施策を進めていきたいと考えている。

また、教職員が子どもたちに向き合い、いきいきと教育活動ができるよう、教育委員会、学校が一体となり、家庭や地域、関係団体との連携を図りながら、計画に掲げる目標の達成に向けて、全力で取り組んでいく。

社会教育の分野においては、市民の生涯学習に対する多様なニーズに応えることができるよう公民館や図書館などの事業を充実し、学習機会の提供、情報発信に努める。また、市の文化遺産の保全継承と活用、郷土の情報発信などにより、ふるさと宝塚を愛する意識の向上に努めるとともに、市民のスポーツ機会の提供と充実など、市民のスポーツライフの支援に努める。これらの取組が市民自らの生きがいづくりになるとともに地域づくりにつながるよう進めていく。